

黄城高

Ojo News Letter Vol.44

CONTENTS

特集ようこそ先輩!!	1
会長挨拶、母校の近況	6
合格だ！優勝だ！	7
各支部総会報告	8
卒業50周年を祝う	10
後輩からの一言	11
お知らせ、トピックス	12
黄城会総会を終えて	14
役員一覧、物故者、寄付金・寄贈	15
事務局通信	16

発行▶平成26年7月1日

発行所▶黄城会

発行人▶岩松 要輔

印刷▶株式会社成印刷

特集 ようこそ先輩!! 63年間を振り返って

小城高校黄城会会報「黄城」(通巻44号)の巻頭特集「ようこそ先輩!!」は、本年5月小城高校で在校生を対象に講演をされた高校21回卒(昭和44年卒)西岡 強(にしおか・つよし)元小城高等学校校長のお話を特集しました。題して「63年間を振り返って」、人生の一端を在校生に諭すように話されました。

西岡 強 氏
元小城高等学校校長

特集

黄城人(高校21回卒) 西岡 強 氏「63年間を振り返って」

みなさん、おはようございます。只今ご紹介いただきました、西岡といひます。この体育館に来るのは久しぶりなんですけども、非常に懐かしく校門をくぐりました。

今日、私は、元教師というよりも、一卒業生として生徒諸君に話を少しさせていただけたいと思ってここに立っています。

先ほどご紹介いただきましたように、63年間を振り返ってということで、中学校に入って、中学校時代、私体は小さいですけど野球をしていました。内野をしていまして、弱いチームでしたけど3年間やりまして、そして高校に入学する時に、中学の3年生の時に三者面談というのがありますよね。どこにいきたくないか、と。将来どういう高校に進みたいかと先生に聞かれても正直言って、ピンと来なかった。ところが実際、学

校を選択、どこの学校を受験するかとなった時に、近くにはその当時、小城高校しかありません。一番近か小城高でよか、と、そういう感じでしたね。だから最近の高校生、中学から高校に入学する時にどういう意識をもって入学しているか、教壇に立って、私なんかは偉そうに言っていました。「目的があって入ったんだろう」自分のことを振り返ってみると、必ずしもそうでなかったな、ただ漠然と高校に、たまたま小城高の合格点に大丈夫だろうと言われてたんで、「それじゃ小城高にします」と実は小城を受験して入学したんですね。

その当時の小城高に入学してびっくりしたのは10クラス当時あったんです。50人の10クラス、定員500人。500人で、そうですね2クラス、今もあると思いますけど、その当時か

らグレードクラスというのがあったんです。

今から、もう50年近く前からですよ、2クラス、グレードクラスというのがありました。グレードクラスってなんやという話で、そういうことで、そういう予備知識が全くない中で、入ってきて、まず、そういうのでまずびっくりしました。

もう1つびっくりしたのがその当時から県一斉模試というのがあったんですよね。そしたら、その成績や惨憺たるもので、今思えばあれがあったから良かったのかなと思うこともあるんですよ。県で何番とか出てくるんですね。それから全国模試。当時は旺文社模試が多かったですけどね。全国模試があって、全国で何千何百何十何番とか出てくるんですね、順位が。そしたら県で何番と、県のその当時トップの人はです

ね、今でも忘れもしませんけども、293点か取ってあったと思います。300点満点で293点という信じられないような点数ですね、ほとんど100点ちゆうことですね。もちろん数学は100点ですね。今もそういう人たまにいますけどね。こいつらはどういう頭してるんだ。びっくりしたことを鮮明に覚えています。そしてもう1つ、出てくる問題、学校で習った特に国語とか英語は私できませんでした。恥ずかしい話ですね。唯一、人より少し良かったのが、数学でした。数学だけは負けたくないという気持ちが確かにどこかにあったんですね。だから、数学だけは少なくとも高校時代、必死になって勉強しました。で、模擬テストで最初点数が悪いですよ。見たこともないような問題が出るわけですよ。こがん問題が解ける、同じ同級生ですよ。解けるのはどんな頭しとるやつか、そういう風に思っていました。ところが、たまたま横に座っていた友達がよくできる人でした。結果的には九大にいったんですけどね。その人の横に座ったのが私は後から振り返ってみたら、何か因縁めいたというか、何かあったのかなと思いますね。数学なんか分からないことはその人に聞いていました。「おい、これどがんなる」って。

そしたら、高校2年の時にですね、休み時間に私がそういうのを聞いたんです。そしたら、次の時間が国語だったんです。大体想像がつくでしょ。その時間に内職をしているわけですよ。その横のやつがね。国語の授業の時に国語の勉強をしないで私に聞かれた数学の問題を一生懸命、解きよるわけですよ。そしたらその時の国語の先生が担任の先生でした。雨も降ってました。「窓開けろ！」って言われたんですね。何かな？って思っていたら、その友達のところへツカツカツカと行って、ブワッとノートを投げられました。窓の外にですね。ただ、あの時は悪いことをしたなと思いました。私がかきなければその友達はしてないと思うんです。ところが、たまたま私が休み時間に「こいどがんなっか、教えろ」と聞いたものだから次の時間にやってしまったわけですね。

その後「ごめん！すまん。すまん、すまん」と謝ったんですけどね。当

時、まだ学校にはプールがなかったんですね。夏になると6月の末から一月弱ですけど、体育の授業で水泳がありました。小城公園の南の端の所に町営のプールがあったんですね。あそこで体育の水泳の授業がありました。そしたら4時間の時は必ず弁当を持って授業行って、帰りは小城公園で昼飯を食って帰っていました。基本的には原則禁止だったんですけどね。こそとやっていたらそれもバレました。その時はそんなに叱られなかったんですけど。「そんなことしたらいかんだろうが」というくらいで。そういうことで、ものすごくのんびりしていたなと感じました。

やはり、中学、高校、大学。まあ、高校からまっすぐ就職する人もいますけど、上級学校まで進む人は大学とあるいは専門学校を含めてですね、あの時期というのは、いろいろな経験を多分するはずですね。その経験というのはその人の人格形成、あるいはその後の職業に影響を与えるなど、後から振り返るとあったような気がします。そしていよいよ大学を選択する時に、これもまた、恥ずかしい話、その当時、そんなに進路選択についてのロングホームルームというのでしょうか、そういうのはあんまりなかったような記憶があります。

「どこ受けるか？」

「どこ受けるか？」「どがんするか？」「就職するか、進学するか」「進学ならどうするか」。その当時も基本的にはですね、文系・理系って分かれてなかったんです私たち。

グレードクラスはありましたけどね。それで国語とか英語とかは共通に受けてましたけど、理科や数学になってくると、理系と文系に分かれて授業を受けていました。そういうシステムになっていましたけど。だから同じクラスの中に3年の時も文系の人もあるし、理系の人もあるという状況でした。それでどうするかという話になって、もう自分とはてて文系には太刀打ちできないと分かっていたので、もう、当然理系です、ということで最終的に理系を選択したんです。

実は私の父が学校に勤めていたん



です。だから小さい頃から「お前も先生になれ」と言われていました。それが嫌で“絶対、教育学部にはいかん”、と。そういう風に肩肘をはっていました、高校の時。行くなら別の学部に行くと、結局選んだのが、理工系学部ですね。

ところが、大学1年の時に父親が交通事故で亡くなりまして、家に残ったのはお袋一人です。上3人、姉がいましたけども、もう結婚していましたので、まさしく親一人、子一人の状況だったんですね。それで大学は地元の大学ですから、家から通えるからよかったですけど、就職となると、一般の企業となると求人が出てくるのを見ると首都圏とか関西圏とかが多いですよ、名古屋含めて、そうすると当然でいかんといけんということになるのでお袋一人残してというようなことになるので、正直言っているいろいろ迷いました。

結果的には教職単位はとっていたので教職を受けたんですけど。で、たまたま運よく受かって、就職したんですけども。

就職してから36年間、結果的には2年早く私辞めましたので、22歳から58歳まで36年間教職にあったんですけども、そのうち26年が学校現場、後の10年が教育委員会、研修も含めてですね、後、10年間は教育委員会関係、行政関係にいたんですね。

それで専門高校から普通高校に赴任した時に、一番ショックだったのがですね、普通高校だと、模擬テストとかあるじゃないですか、そうすると自分が持っているクラスの数学の平均点と別のベテランの先生が持っているクラスの平均点が5点くらい違ってたんです。模擬テストです。模擬テストで平均点が5点とい

うのは結構大きいですよ。はっきり言って。同じようなクラスです。ところが現実にはそうだったんです。なぜかなあ。進学校に移った時に、それ1年くらい悩みました。自分では手抜きしてるつもりですよ。一生懸命教えているつもりですよ。教科書を説明し、問題集をしてくださる。ところが、平均点がそれだけ違うということは何かある、何かあるはずだと、2年目、3年目くらいになってから大体分かってきました。結局、後から振り返ってみると同じような力で、教科書の1ページから300ページなら300ページまでやっていたんですね。そんなに手抜きをしたつもりはありません。しかし、それだけ結果が違うということは何か。同じようにやっているからどこが山なのか、どこがそうでもないのか分かってなかったんでしょうね。だから、ここ、いうポイントを押さえていけば何とかなるんじゃないかということだったんですね。そしたらそれを次の学校で実践しました。

その代わり厳しくやりました。結果は自分が思っていた以上の結果が、結果的にですね。やっぱりこれなんだと、それで自信をもったのは1つなんですね。だからあの当時、普通高校で特に専門高校から進学校に移った時にまず一番最初に不安に思ったのは結局、教えきっちゃろうか、というのが正直あったんですね。専門高校に3年居ました。新採から。もちろん、その時も授業はしていましたが、そんなに難しい受験用の数学とかはほとんど教えてないですから。

教科に対してはそんなに苦労しませんでしたけど、進学校に移って、質問されて答えきらないのかとかものすごい不安ですね。何度かそういうこともありました。わざといじわるみたいに持ってくるんですね。若いペーパーが来て、何か不安そうに教えとると、こいつ、いっちょ何かいじわるしてやれみたいなね。だから難しいのを持ってくるんですね。その当時ですね、『大学への数学』という難しい月刊誌があったんです。今もありますね。あのですね数学の懸賞問題が後ろに載っているんですが、あれ、難しいんですよ。正直言って全部、解ききれない

んですよ。解けませんでした。そういうのを時々生徒が持ってくるんですよ。「これ先生教えてください」って。「あ！きたな」とだから私は1週間前くらいに買って早くから解きよるわけですよ。そろそろくるかなと。ところが案の定、時々来てました。

事前に見てるわけですから解けるのもありますけど、それでも解けないのがあるんですね。そういう時には同僚の先生に聞いてました。「先生、こんなして生徒から言われたんですけど、自分ちょっと解ききらん。だからちょっとよかですか」そういうことも何度かありまして、教師としてはちょっと悔しいというか、無力感というか、そういうのも感じた時期がありましたですね。ただ、振り返ればそれも生徒から鍛えられたんだなという感じが私はしました。多分、生徒がそんなことを聞かれないければそのままスーっと行ったと思います。そんなにですね。たまたまそういう生徒がいたもので、立場上やっぱり知らないとは非常に教師としてですね、専門教科でこれは解けませんとはなかなか言えないんですよ。

だから生徒諸君も、今いろいろと大変な時期だろうと思うんですよ。やれ勉強、やれ部活と、やれなんだ、かんだと相当忙しい毎日を送っていると思うんですけども、たかが受験勉強って思っている人もいるかもしれません。されど受験勉強なんですね。

受験は知識だけでない

受験勉強というのはそれで得た知識だけではないということは間違いないと思います。受験勉強で夜遅くまで勉強した、朝早くから起きて勉強した、今度のテストのために勉強した、あるいは大学受験のために勉強した、そういうのはその時の一時期の通過点にしか過ぎませんですけども、その通過点の部分が少しずつ一と積み重なっているということ、一卒業生として声を大にして言いたいんですね。だから「努力は裏切らない。」人は裏切ることがありますね。人は裏切ることがあるんですよ。ところが努力は裏切らない。どういう形で結果が出てくるかは人それぞれですね。すぐ出てくる人も

あるだろうし、すぐ出て来ない人もひょっとしたらあるかもしれない。時期が少し、ずれて出てくる人もあるかも。何らかの形で必ず自分の実についていっているのは事実なんですよ。間違いありません。

だからそういうことは1つ、ぜひ、特に若い人はぜひ覚えておいてもらいたい。こういうことはみんなが言っていることだと「努力しなさい」。一般論でみんな言いますよね。まさしく、その通り、必ずどこかでそれが出てくるということですよ。それを教職36年間で1つ、揺るぎない結論といいますか、そういう風に私は思っています。

それで学校現場を離れたのが43歳の時。43歳、ちょうど本校、小城高に39歳で赴任して1年、2年、3年って持ち上がったんですね担任を。で、2年の終わる時にお前、数学の勉強が足らんから、内地留学してこいと言われました。もう一回数学勉強してこい。ところが2年の担任ですから、ぜひ自分の母校で卒業生をだしたいという気持ちがありましたので校長先生にお願いして、もうちょっとぜひ居らせてくださいとお願いして、結果的にはそのまま残ることができたんですね。で、そのまま3年の担任をしました。で、3年の担任が終わる頃、2月頃、また、どこどこにいかんかということでもらいました。

「西岡さん、またきとっばい」「何ですか？」「去年のことさ」「ああ、またきたか」と思いましたけど、今度は場所が違ってましたけどね。

そして次の言葉が今でも忘れられませんけど「お前、しょっちゅう断りよるぎ、もうなかぞ」そういうことを言われまして「もうなかとはどういうことかなあ」とちょうど3年の担任が終わろうとして、ちょうど2月の末、3月にかかる頃、前期試験が終わった頃ですよ。終わって間もない頃。結果待ち、前期試験の結果待ち。自分の担任していた子はどがなかなど。もうはっきり言ってそれどころじゃないですよ。3年の担任というのは。精神状況がそれどころじゃない。それで2日くらい間がありまして、その間考えてこい。受けるか受けないか考えなさい。そしたら、友達とか先輩、少しおつきあいしてもらっていた教職

の先輩もおられたので「こが言われたけどどがんですかね」ともちろん、最終的には自分が決めるといかにですけど、結果的にはお願いしますということで、行ったのが教育委員会 教職員課という、人事とかあるいは教職員の採用試験とかを担当している部署で、1年間の研修でした。

あの時、一番悔しかったのは書類を叩き付けられたことです。上司から。その上司は文科省から来ておられる人でしたけど。私がですね、答えきらなかつたんです。「決裁お願いします」。自分がした仕事やなかつたんですね、それが。先輩の方が自分が忙しかけん、お前が、回って決裁をもらってこいと。決裁というのは係長とか課長とか、職階制になっていますので、その人の印鑑をもらっていかないといけないわけです。内容によっては最終的に教育長まで、ずっと印鑑を押しもらって、全部印鑑がそろったところで“はい、これは執行していいよ”ということになるんですよ。

で、2か所か3か所は順調にいききました。そこに来た時に、「これ、どうなってるの?」と言われてたんです。そこで私がなんと答えたかという「いや、それ私がしてない仕事ですから分かりません」と答えたんです。1年目ですよ。

「これ、決裁お願いします。それ、私は直接の担当じゃないのでわかりません」。行政の常として、あるいは民間会社の常として、あり得ないことですよ、私の発言はあり得ないことなんです。“これ、印鑑をお願いします”、“決裁をお願いします”ということは、仮に向うから何かの質問が飛んできた時に、これはこうです、ああですということが説明できなければ、印鑑はもらえないですよ。一般的には。それが私が、そう言ったものだから「何だー!」と書類をバーンと投げつけられました。

なぜならば、自分がした仕事じゃないよって。ところが、それは私の甘えなんですよ。決裁をもらうということがどういう意味だと思っているか、私が全く理解していなかったんです。その後も何度か、決裁もらってきて、とその時には事前に何時間でもかけて自分が分からんこと調べてから質問しろという風にした

ら、何も聞かれんわけ。何故ならば、試されたんですよ。後から思いました。ちょっとこいつ分かっているのか。自信がないものだからやっぱり態度に出るわけですよ。自分が使いつ走りみたいに来てるわけですから。相手にやっぱり分かるわけですよ。だからこいつ本当に知っているのかと、その後は聞かれませんでした。

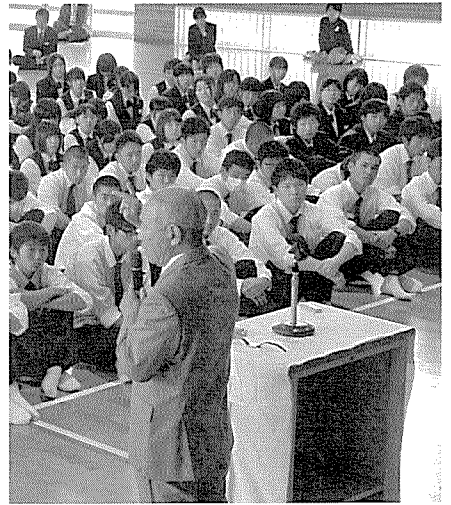
それがスタートだったので、凄いとこにきたなど、本当にびびりました。あんなに怒られたことなかつたですね。書類を叩き付けられるなんていうことは、それ以来、もちろん私もしたことないですし、されたこともありません。ただ、そういう洗礼を受けてですね、やっぱり、自分は甘いなとか、そういうことなんですね。もっと事前に予備知識とか含めてもっとくべきだった、勉強していけば良かったなど。それで1年過ぎたら文部科学省の方に行ってこいと、1年間東京の方に単身赴任しました。全くの佐賀の田舎者ですよ。

右も左も分からぬ東京で

右も左も分からぬ東京で、祐天寺という東急東横線の近くに東京の寮があって、そこに一人、1年間、その時、県から行政の人が5~6人、行政の人は若いんですけど。30歳前後の人が研修に、同じ研修生ですね。私は教育委員会から文科省の方に研修に、ある人は総務省に研修に行くとか、民間にも行ってましたね。

そこで1年間過ごしました。その文科省の研修時代は非常に役立ちました。役立ちましたというのが何でかという、知識だけじゃなくですね、例えば法律がどうしてできているのかなども、ちょうど1年間で2つの課を回されたんです。半年半年ですね。

最初のところは地方課と言って、県の教育委員会のいろいろの中継ぎ役と言いますか、指導も含めてですね。地方課、ローカルのですね。そこが教育委員会関係の窓口でした、文科省のですね。で、そこで『教育委員会月報』という月刊誌があるんですけど、その編集をさせられました。もちろん研修生ですから主担当ではありません、その補佐ですね。



それでいろいろ、私たちが原稿を書くわけじゃないですけど、原稿を依頼された人の原稿を取りに行って、それを印刷に回したり、あるいは校正したり。

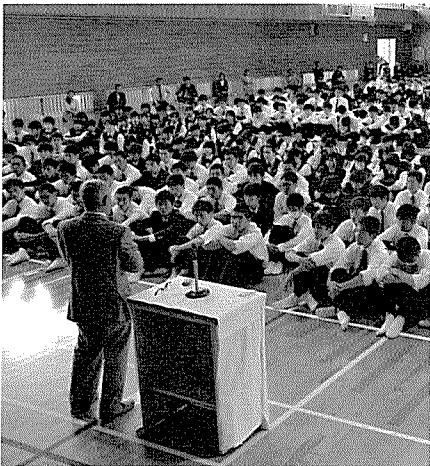
その時参考になったのが他の県の事情がわかりました。『教育委員会月報』というのはいろいろ特集があって、月によってテーマが違うんですね。例えば5月号は都道府県の教職員の研修についてとか、特集をずっと組まれるわけです。

そういうのを校正せんといけませんから全部読まんといかんわけです。こういう県はこういう研修をしているのかと、佐賀県にはないような研修もあり、大変参考になりました。地方課担当で研修だとか人事を担当する人達の中央の研修会がしていました。私は、研修生ですけど一応講師ですよ。立場上は文科省の半職員みたいな感じですからね。ところがその勉強をさせられたのが法律関係、あるいは今まで起こった事例なんか。あるいはその裁判でこの事件は、この案件はこういう判決が出ていると、そういうのを調べて上に出さんばいかんわけです。これはどがんなつとるかと言われてたら。そしたら夜中までかかっても探しらんわけですよ、その資料を。この判決、すごいなと思ったのはですね、何も見らんで「この判決、多分あったはず」と言われるわけですよ。調べると、そしたらそこから引っ張りだして調べんといかんわけですよ。何時間とかかるわけですよ、ひとつの案件で。調べるの。あれは正直言って、苦勞いたしました。ただ、それもこれもこれはこうやろうもん、と思ったことが違う判決がで

ていたりするんですよね。これはこがんやろうもんと思ってたのと違う案件。そういうので結構、仕事上で得たこと、参考になったことは沢山あるんですよ。

それと、その当時ゆとり教育が盛んな時代です。ちょうど20年前でした。それで各都道府県の教育委員会がどんどん授業数を減らしていったわけです。学校の授業数を週32時間にしろとか。どんどん減って。その1つの弊害としてでてきたのが、ま、弊害とあえて言いますがね。(私は弊害と思っているんです。) 地歴科の未履修問題ですよ。総天井枠が増えたらどうなるか。もう、1つの授業時間数を減らすしかないですよ。あの、単位数をね。大学受験に必要な科目数は基本的にある程度決まっていますよね、大枠で。それを全部履修させるためには1つの単位数を減らさない、授業時間数を減らさないことには当然、できない。だから、そういうことでいうと、あの時に起こったことは学校としては苦汁の選択だったわけです。その件で私も実は処分されたんです。

私、前任校で校長をしておる時にそれを知っておりました。その事実を。私がちょうど教育委員会にいる時に、結果的にですよ。「お前、知っとたか」と言われたんです、上司から。「ああ、知ってました」「なんで今、お前、そういう立場にある人間がね、知っとって黙っとったか」。その時にですね、1つだけ言ったことがあるんです、その上司に。何を言ったかという。「はい、私たちは決まりを破りました。学校が揃って破りました。その処分は甘んじて受けます。しかしながら、そういうこと



になった原因は文科省の方にきちっと調べてから報告してください」と言いました。

現場の実態はどうかということをふまえて、そして、今後、国際人にふさわしい日本人を育成するために、どういうカリキュラムで、どういう時間数で、どういう教科をさせていくことが必要なのか、きちっと判断をされて、こういうことをされているならいいですよ、と私は言いました。それはですね、結果的には教育長から言ってもらいました。

嬉しかったです。はっきり言って。佐賀県が一番先に処分したんです。その時に当時の文科大臣が教育長に何て言われたか。「あんまり急がんでよかですよ」って言われたそうです。な、何をって、思いました。はっきり言ってですね。あれは本当に腹がたちました。正直言って。だから本当、実態をきちっとふまえた上で、そしてなおかつ、学校現場がとんでもないことをやってるのであれば、厳罰に処してもいいと私は。ただ、本当にどうかということをきちっと把握してもらいたかったですね、その時に。非常に残念でした、その時。それと、同じ教育委員会にいた時にですね、もう1つあえて言いますと、人事なんかを担当している関係上、投書がくるんです、投書。実は私も投書されたんです。ま、あえて恥をさらしますがね。私の家内は専業主婦だったです。家で着物とか縫い物をしていました。人から頼まれて。要するに内職ですね。それをですね、どこで聞きつけたのか、誰が聞きつけたのか知りませんが、『西岡課長の奥さんは家で縫い物の内職をしています』。親と同居していました。その後の文言に私は激怒したんですけどね。『親の面倒もみないで内職をされています』。私が何かしたことで非難を受けるなら甘んじて受けますけども、家内が、例えばですね、している仕事、親の面倒も見らんで、ってなんちゅうことなのか。

もちろん、誰が投書したか分かりませんよ。それ以来、人間不信になりました。ただ、そういう経験をしたということは、振り返ってみたらですね、私はマイナスではなかったと思っているんです。人間というのはそういう部分があるんだという

ことをはっきり感じました。その時ですね。それ以外にもたくさんあるんです、実は。まあ、時間の都合で話せませんがね。生徒諸君に、この場で、あえてこういう機会を得ましたので言いたいんですけど。凛として生きてください。

「品格をもて」

私が現役の校長の時に生徒諸君によく言っていたことは「品格をもて」と言っていました。「品のないことはするな」と。「品格とは何か」具体的に言っていました。

人間としてしたらいかんことはしたらダメだ。そういうことを実践できる大人になって欲しい。凛として、品格を持って生きて欲しいということを生徒諸君によく言っていました。それは全然今も変わりません。

それで最後に、一言だけ言わしていただくと、私は、人生が終わる時に、まあ、良かったかな、と。自分の人生良かったかなあと思えるような死に方をしたいとずっと思っていました。

もし、人生が終わる時にですね。生徒諸君も振り返ってみて、あの時あだった、こうだった、あの時、あの時は失敗した、いろいろあるでしょう。今からの人生、いろいろあると思います。いろいろあるんですけど、トータルで振り返ってみた時に、まあ、自分の人生よかったのかなあ。100点満点ということは現実的にはなかなかないことですよ。そうありがたいですけど、そうはいきません。ただ、まあ、良かったのかなあと言えるような人生を送ってみたい。そのためには今何をなすべきかというのは先ほど言いましたが努力は嘘をつかない、努力は裏切らない。それを信じてぜひ頑張ってもらいたい。

Profile

西岡 強 (63歳)

小城高等学校 昭和44年卒業
(高校21回卒)

三日月町出身

佐賀大学理工学部卒業



黄城の故郷から

黄城会会長
岩松 要輔

平成26年度を迎え、全国各地の会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと拝察いたします。母校に南接する小城公園は、初夏の候となり樟の若葉とツツジの花に彩られています。

常日頃、黄城会の活動にはご支援ご協力をいただき、感謝いたしております。黄城会は、明治38年8月に「会員相互の連絡を図り親睦を厚くし兼て後進を奨励する」を目的に掲げ旧制小城中学校同窓会として発足し、百有余年にわたり活動が続けられてきています。昨年度は総会のあと、会報の発行、一般財団法人黄城教育会館としての本格的活動、全国10支部における支部活動、ホームページの刷新などに取り組んで参り

ました。ご招待を受けた支部総会へは、坂本小城高校長、大塚教頭とともに七田副会長、井手副会長、外尾事務局長と手分けして出席させていただきました。各支部の活動の様子を見聞させていただきました。各支部の母校に対する熱い思いを知ることができました。

今年度の黄城会総会は、恒例の5月3日に母校の体育館において、「つむぐ黄城の伝統・人・心」をスローガンに、飯盛宏徳実行委員長を中心として新高41回卒業の皆様のご尽力で感動的で素晴らしい会合となりました。総会行事のあと第二部の黄城の集いで、高校16回卒業の皆さんの卒業50周年祝賀が行われましたが、ご同慶にたえません。第三部のアトラクションでは、「小城高校吹奏楽・合唱部ミニコンサート」、「野副一喜ライブショー&大迫佐和子トーク

ショー」が行われ、楽しい時間となりました。恒例の饅頭会は来年度の担当回期新高42回の皆さんの接待で大変盛況でした。

さて、母校小城高等学校においては、昭和36年からながらく親しんで参りました4階建ての白亜の教室棟が、今年3月から解体工事が始まっており、素晴らしい3階建ての新校舎が出来ることでしょう。小城高校の敷地は、藩政時代小城鍋島家の藩邸があった場所であり、南の小城公園はその庭園であり、教育施設を設置するには、すばらしい環境にあります。小城高校の益々の発展を望みます。

最後になりましたが、黄城会の発展と同窓諸兄姉のご健康とご多幸を祈念申し上げ、会報のあいさついたします。

(平成26年5月20日)



母校の近況

校長
坂本 武敏

小城高等学校の職員となり1年たち、一千名を超す同窓会総会の出席者数や、各学年4名計12名の生徒に対する奨学金事業、さらに各地区の支部総会に参加し、黄城会の結束の強さや、組織運営の見事さその活動ぶりを目の当たりにして、ただただ、驚嘆するばかりです。過去一世紀以上にわたって多くの人材を輩出してきた小城高等学校同窓の方々の、後進を育てよう、社会に寄与できる人材を育成しよう、という熱意をひしひしと感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。

本校の現状について御報告させていただきます。

まず平成26年度大学入試結果等についてご報告いたします。合格者数については現浪合わせた数です。国公立大学合格者数87名(含む佐賀大医学部医学科)、私立大学合格者数343名(含む明治大学、東海大学、同志社大学、西南学院大学)、短期大学17名、看護学校・専門学校54名、その他の大学1名、就職6名(含む自衛隊、県警、多久市

役所)でした。生徒たちの最後まででの努力の結果、以上のような合格者を出すことができました。

次に、部活動について報告します。運動部、文化部ともにすばらしい活躍でした。

運動部では、運動部指定校枠をいただいている女子柔道部が、高校総体での団体優勝(7連覇中)、個人戦でも多くの優勝者も輩出し、九州大会で辻村、中村が2位の成績を収めました。また、全国高校柔道選手権にも出場しました。男子柔道も高校総体で団体3位、個人戦で古賀が優勝、全国高校柔道選手権の個人戦で福地が5位入賞を果たしています。また、バドミントン部が高校総体で男子団体準優勝、男子シングルス福島・喜多が3位、男子ダブルス福島・喜多ペアが優勝を果たしました。他にも高校総体団体ではソフトテニス部男子、弓道部男子が準優勝で九州大会へ進出、多くの部がベスト4以上に残る力をつけてきています。

文化部では、書道部が全日本高校書道コンクールで部門最高賞に大久保、馬場が入賞、準部門最高賞に5人が輝き、団体賞優秀校の第4位に輝きまし

た。書道部、美術部、吹奏楽・合唱部から長崎県で開催された全国総合文化祭に出場し、放送部はNHK杯全国高校放送コンテストに出場しました。さらに、九州青年美術公募展において、美術部の上山が文部科学大臣賞を受けました。文化部の活躍も目を見張るものがあります。

こうした成果だけでなく、本校では、早朝に生徒会・柔道部を中心に学校周辺の清掃活動を行っています。また、吹奏楽・合唱部による施設訪問、図書部の読み聞かせ活動等が盛んになってきました。天山登山でも、自分で家から火ばさみを持参して登山道のゴミ拾いをする諸君もいます。社会貢献を実践する心と行動に深く感謝します。

「文武一途を旗印に、オンリーワンを社会貢献のできる優れた人材へと育む」というスローガンが実現できる教育環境に恵まれ、支援いただく保護者・同窓会・地域の皆様のご理解、本校教育に献身的に尽力いただく先生方、そして何より素直で真面目な生徒諸君に感謝しながら、微力を尽くし、さらなる前進を目指します。どうぞお立ち寄りいただき、御叱正・御指導ください。

合格だ!優勝だ!

平成25年度
学業報告・部活動の成績

平成25年度合格状況 ()内は過年度卒

【国立大学】静岡大学1/和歌山大学1(1)/岡山大学1/島根大学1/山口大学1/徳島大学1/九州工業大学2/佐賀大学23(10)/長崎大学3(2)/熊本大学4/大分大学5(1)/鹿児島大学4(2)

【公立大学】秋田県立大学(1)/鳥取環境大学(1)/山口県立大学1/下関市立大学1/高知工科大学1/北九州市立大学8(2)/長崎県立大学6/大分県立看護大学1/宮崎公立大学2

【私立大学】日本大学1/駒澤大学(1)/帝京大学3/国際医療福祉大学4(1)/東海大学(4)/明治大学(1)/金沢工科大学3/同志社大学1/京都外国語大学(2)/京都産業大学7/京都造形芸大1/近畿大学6(1)/立命館大学1/龍谷大学4/広島国際大学1(2)/安田女子大学2/九州産業大学18(1)/久留米大学45(4)/西南学院大学10(4)/中村学園大学4(1)/福岡大学75(9)/福岡工業大学8(4)/福岡女学院大学4/筑紫女学院大学16/九州女子大学1/九州看護福祉大学1/西九州大学22/長崎国際大学4/活水女子大学5/立命館アジア太平洋大学1(1)/その他の大学48(11)

【短期大学】私立短期大学16(1)

【その他】文科省外大学(1)/高等看護学校24(1)/医療系専門学校9/その他専門学校20/就職6

平成25年度部活動の成績

【体育部】

1. 柔道部

○第51回佐賀県高等学校総合体育大会/男子団体第3位/女子団体 第1位/女子 第1位 酒井なつみ/女子 第1位 辻村梨那/女子 第1位西谷史佳/女子 第1位 中村菜那美/男子90kg級 第1位 古賀俊介/男子81kg級 第2位 笹川哲哉/男子90kg級 第3位 中村駿/男子60kg級 第2位 福地翔磨

○平成25年度全九州高等学校体育大会柔道競技/女子 第2位 辻村梨那/女子 第2位 中村菜那美

○平成25年度佐賀県高等学校新人体育大会柔道競技大会/男子60kg級 第1位 福地翔磨/女子団体 第1位/女子 第1位 中村菜那美/女子 第1位 西谷史佳

○第17回九州高等学校新人柔道大会/女子

中村菜那美

○第36回全国高等学校柔道選手権佐賀県大会/女子団体/女子 第1位 中村菜那美/女子 第1位 西谷史佳/男子60kg級 第1位 福地翔磨

○第36回全国高等学校柔道選手権大会/男子60kg級 第5位 福地翔磨

2. バドミントン部

○第25回佐賀県高等学校生徒バドミントン競技春季大会/男子ダブルス 第1位 福島将・喜多勇介



書道部

○第51回佐賀県高等学校総合体育大会/男子団体第2位/男子シングルス 第3位 福島将/男子シングルス 第3位 喜多勇介/男子ダブルス 第1位 福島将・喜多勇介
○平成25年度佐賀県高等学校新人体育大会/男子ダブルス 第3位 嘉村侑哉・喜多勇介/男子シングルス 第3位 喜多勇介

3. 陸上競技

○第68回佐賀県陸上競技選手権大会/女子砲丸投第3位 江口敦子

○第51回佐賀県高等学校総合体育大会/女子砲丸投 第2位 江口敦子/女子円盤投 第5位 江口敦子/女子200M 第6位 盛田雪乃

○第27回佐賀県高等学校女子駅伝競走大会/第4位 (廣瀬、前田、濱村、野田、北川)

○第18回佐賀県高校陸上競技選手権大会/男子4×400M R 第3位 樋口賢太・辻田祐太郎・木村弘幸・陣内翔一/女子1500m 第1位 廣瀬咲紀/女子3000m 第2位 廣瀬咲紀/女子3000m 第3位 北川真衣

4. 弓道部

○第51回佐賀県高等学校総合体育大会/男子個人第2位 平千宙

○平成25年度佐賀県高等学校新人体育大会/女子個人 第2位 中村茜音

○平成25年度佐賀県高等学校弓道1年生大会/女子個人 優勝 井上悠/女子団体 第2位 真崎世奈・中村茜音・井上悠

5. ソフトテニス部

○第51回佐賀県高等学校総合体育大会/男子団体第2位

○佐賀県ソフトテニス高校生夏季大会/第2位 重本昇臣・北島武

○第39回全日本高等学校選抜ソフトテニス佐賀県二次予選/団体 第2位

○佐賀県ソフトテニス高校生春季大会/第3位 重本昇臣・北島武

○平成25年度佐賀県高等学校学年別テニス大会/1年男子 第3位 村島幹征/1年女子 第3位江口真優

6. 女子バスケット部

○第44回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会佐賀県大会/第3位

7. 少林寺拳法

○平成25年度佐賀県高等学校新人体育大会少林寺拳法競技大会/男子単独演武 第2位 村山弘和

【文化部】

1. 書道部

○第38回佐賀県書作家協会展/佐賀県書道家協会賞 大久保夏輝/佐賀県書道教育連盟賞 納富由季

○第41回佐賀県書道教育連盟主催 七夕書道展/知事賞 阿部佳央梨

○第65回佐賀県高等学校席書大会/特選 藤原朱里/奨励賞 阿部佳央梨・大久保夏輝・馬場捺未・五郎丸咲希・坂井絵梨佳・相島加奈美・江副日向子

○第24回書聖中林梧竹翁席書大会/梧竹大賞 藤原朱里/梧竹顕彰会賞 納富由季

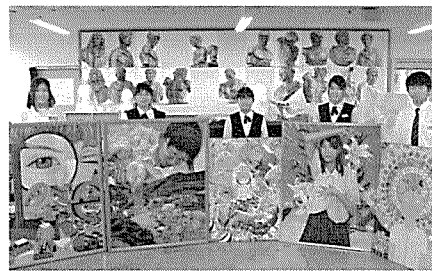
○第25回県高校総文祭 書道展/特選 藤原朱里/奨励賞 江副日向子・中原明香里・相島加奈美

○第8回尚綱大学高校生書道展/尚綱大学文化言語学部長賞 田中七海

○第36回中林梧竹翁顕彰書道展/梧竹顕彰会賞 大塚はるな/J Aさが賞 江副日向子/特選 田中七海

○第38回佐賀県高等学校臨書展/特選 大久保夏輝・五郎丸咲希・木塚美咲・相島加奈美・藤原朱里・江副日向子・陣内里菜・野中友莉香・古賀純奈・澤田百江・手塚伊都

○第19回全日本高等学校書道コンクール/部



美術部

門最高賞 大久保夏輝・馬場捺未/準部門最高賞馬場捺未・坂井絵梨佳・木塚美咲・田中七海・納富由季/全日本高等学校書道教育研究会賞/阿部佳央梨・大塚はるな・五郎丸咲希・杉町桃佳・平山亜樹

○第35回読売書道展/読売新聞社賞 大久保夏輝/特選 馬場捺未・田中七海

○第59回佐賀県書道教育連盟主催書初書道展/県知事賞 納富由季/特選 大久保夏輝・馬場捺未

○第19回全日本高等学校書道コンクール/団体優秀校 第4位

2. 美術部

○第66回佐賀県高等学校スケッチ大会/美術連盟賞 金子万吏/特選 上山葉子

○第19回九州高文連美術・工芸・書道・写真展佐賀大会 美術・工芸部門/優秀賞 金子万吏

○第25回県高校総文祭/美術・工芸部門 絵画部門 特選 米倉美穂・上山葉子・執行春芳/デザイン部門 特選 野村明日香/デザイン部門 準特選 長谷仁嗣・山口晃広/絵画部門 準特選 中村智子・武藤彩乃/絵画部門 佳作 山下真歩

○第37回九州青年美術公募展/文部科学大臣賞 上山葉子/奨励賞 中村智子/審査員特選賞 執行春芳/朝日新聞社賞 長谷仁嗣

○第52回デッサンコンクール/石膏の部 特選 金子万吏/石膏の部 奨励賞 上山葉子/静物の部特選 武藤彩乃/静物の部 準特選 中村智子・米倉美穂・山下真歩・野村明日香

○佐賀県教育委員会表彰/上山葉子

3. 放送部

○第60回NHK杯全国高校放送コンテスト佐賀県大会/校内放送研究発表部門 入選/アナウンス部門 優秀賞 納富まなみ/朗読部門 奨励賞 牧口千音美

○第25回県高校総文祭 放送部門 アナウンス部門/奨励賞 陣内美緒

4. 吹奏楽合唱部

○第54回佐賀県吹奏楽大会/銀賞

○第37回全国高等学校総合文化祭/文化連盟賞

○第80回NHK全国学校音楽コンクール佐賀大会/銅賞



柔道部

支部総会報告

2013年度



関東支部

12月8日 新宿 京王プラザホテル 85名
支部総会は10月26日の予定が台風の影響で12月8日に延期となり新宿の京王プラザホテルで開催されました。年の瀬も近く参加者の動向が心配になりましたが、85名の方が参加されました。120名の予定が大幅に減り20数年ぶりの京王プラザホテルに迷惑をかけました。

本部から坂本武敏校長先生、外尾美好事務局長と、中京支部より久本哲義支部長、唐津支部より鮎川正博事務局長、関西支部から吉谷弘前事務局長が参加され大いに盛り上がりました。

総会の議事は滞りなく議決され、来賓の坂本校長先生、外尾事務局長から小城高や黄城会の現況等説明がありました。大学も地元志向で上京する卒業生が少ないのは淋しい限りです。

2部の黄城の集いでは、最年長旧中40回卒石盛要さんの乾杯で始まり、25年度の実行委員40回卒の方々がお礼を兼ねた挨拶をされ、昨年に続き東島朗実行委員長のパフォーマンスに会場内は大爆笑でした。次に今年の担当41回卒の実行委員が5月3日の総会への参加を要請されました。

取り寄せた岸川まんじゅうも饅頭会も総支配人からの差入れのケーキも美味しく頂きました。余興は日本に5名?とも言われている辯問のお座敷芸を櫻川七好師匠が披露しました。なかなか見ることが出来ない芸に、みなさん大喜びでした。最後に顧問の吉村前支部長から生徒が外に出て経験を積むように指導してほしいことを希望し、関東支部は楽しく有意義な会として活動することを祈念して関東一本締めをして解散。

(高校14回 関東支部副支部長兼幹事長 橋崎 進)



中京支部

11月17日 名鉄ニューグランド 38名
平成25年11月17日 名鉄ニューグランドにて第18回総会開催

例年の如く七田副会長・大塚小城高校教頭・関東・関西代表・県人会会長や40・41回の実行委員皆さんのご参加を戴き総勢38名で無事開催出来ました。これも皆さん方のご協力のおかげです。

今回3名の新参加が有り、それぞれ一言ご挨拶が有りましたがそろそろ参加してみようとか、何をしているのか?疑問と今後の様子等を感じられたと思います。次回も参加すると聞き続けた甲斐がありました。

今後1人でも多くの参加を目指しスタッフ一同いろいろなアイデアを持ち寄り進化したいと願っています。

今年に入り39回の真子博行氏がFacebookを開設しました、黄城会中京支部を紹介しています。黄城会の絆が広がり関心を持ってくれることを…真子・堤・江里口・久本と繋がっています。

(高校11回 中京支部支部長 久本 哲義)



関門・北九州支部

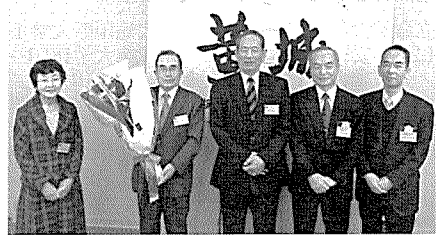
11月10日 リーガロイヤルホテル小倉 23名
今年は日曜日の昼間の開催にしたのが奏功したのか、支部員の参加が13名と昨年よりも2名多い結果となりました。来賓の方にお話を伺うと、他支部も昼間開催にしているところが多いようです。確かに、高齢化が進展している当支部としても、明るい昼間に開催する方が良いかもしれません。今後の検討課題です。

ご来賓の皆さんから小城高校や黄城会総会の様子などの報告が終わり、懇親会に入ろうとしたその時に、野中支部長より「緊急動議」がなされました。

いわく「本支部総会をもって、支部長を退任する。後任には橋間副支

部長(高校9回)を推薦する」とのこと。突然のことで皆さん驚きましたが、橋間さんを次期支部長とすることで満場一致しました。

今年は予期しないハプニングがありました。少ない人数の中にあっても、非常に和やかな楽しい雰囲気です。総会を無事に終えることができました。
(高校35回 宝蔵寺和夫)



福岡支部

10月12日 西日本新聞会館16階国際ホール 141名
当日は清々しい秋晴れの下、福岡支部の大先輩から高校41回期卒の後輩まで福岡県内と地元佐賀より、総勢141名の皆様にご参加頂きました。

今年度は、40回期卒が当番幹事となり企画・運営・設営等を行い、アトラクションではトミー富岡「爆笑ものまね&トークショー」や、地元佐賀のご当地クイズで盛り上がり、さらに多久市と芦刈・牛津のキャラクター「多久翁さん」・「牛五郎」に登場頂き歌声・笑い声の絶えないひと時を先輩方・後輩と共有できました。

また今年度も、数多くの皆様方の総会冊子への広告掲載・運営活動賛同金へのご協力を活動資金として活用させていただきました。

開催に至るまでは、数々の不安もありましたが武富支部長をはじめ支部役員の皆様、39期の先輩方、福岡支部や地元佐賀の40期生と41期生、そして広告、賛同金にご協力いただいた皆様、数多くのご指導・ご協力により、盛会ののち終えることができました。この紙面をお借りしてご協力頂いた全ての方々にお礼申し上げます「有難うございました」

私たち40期生の役目は一旦終わりましたが、今後「伝統ある黄城魂」を引継ぎ、後輩たちの支えになり、多くの諸先輩方と共に黄城会の「礎」になればと考えております。

運営に携わらせて頂き、改めて黄城の「絆」の深さを、実感しました。
(高校40回 中野 光)



唐津支部

2月2日 虹の松原ホテル 37名

本部より岩松会長、外尾事務局長、母校より坂本校長先生、佐賀支部、福岡支部の役員の方も来賓としてお越しいただきました。

総会では、白石支部長の支部活動の報告と今回で第3号となる支部会報を配布しました。次に来賓の皆様からは、黄城会本部や各支部の活動の紹介、最近の学校、生徒たちの近況をうかがいました。また、総会実行委員の方には昨年参加のお礼と感想を、今年の総会の案内と抱負を発表してもらいました。

懇親会では、唐津支部の参加者の皆さんから近況を話していただき、アトラクションとして当支部の江口さんによる唐津支部恒例となったマジックショーやビンゴゲームで盛り上がり、楽しい時間を過ごすことができました。
(高校28回 唐津支部事務局長 鮎川 正博)



佐賀支部

10月6日 ホテルニューオータニ佐賀 約200名
私達は、このたび2014年度担当回期として佐賀支部総会に参加させていただきました。

開催に向けた打ち合わせ会である佐賀支部役員会にも出席させていただき当番回期としての役割はもちろんのこと、諸先輩方からご配慮いただき黄城会総会のPRやご協力についてごあいさつさせていただくことができました。

右も左も分からない赤子同然の私達に黄城会の仕組み等数々のことを学ぶ貴重な機会となりました。

総会は、伝統があり、気品あふれるホテルニューオータニ佐賀で「黄

城魂」で繋がる総勢約200名もの参加の中で高校40回の高塚、諸永両先輩の司会のもと山田佐賀支部長のごあいさつで幕を開けました。

ご来賓には、岩松黄城会会長他、小城高等学校の坂本校長においでいただき盛大かつ厳かな中でも、それぞれが懐かしい時間を過ごすことができたことと思います。

同窓生とは、一生に一度会えるか会えないかの中で、こういう機会は非常に貴重だと痛感しています。

私達も、数多くの諸先輩方がおられる中で、身が引き締まる想いと緊張感の中で与えられた役割を全うできるのか、そして満足いただけるのかとても不安でした。

無事に決算報告も承認され、会は総会から懇親会へ移り、和やかな雰囲気になりました。

おかげさまで、この黄城会が持つ雰囲気により、私達の緊張の糸も緩やかになり参加させていただきました41期約30名もそれぞれの役割毎に無事終了することができました。

私達は、2014年度のスローガンに「つむぐ 黄城の伝統・人・心」という言葉を掲げさせていただいております。

この中で、特に「人」については、改めてその大事さを感じております。

黄城を通じて人と人とが出会い、そしてつながりができ発生する縁。

そしてその縁から生じる同窓と同郷の意識が高まり、強く逞しく結ばれる友としての輪。

同窓そして同郷を懐かしみながらも、伝統を大事に、心をかよわせより強固につむいでいく。

そんな想いが改めて目覚め、確信へと変わってきています。

次回の総会は、このような想いを前面に出し、今回の総会に負けぬ、恥じぬような記憶に残る温かな総会にできればと思います。

文末にあたり、このたびの総会開催、誠にありがとうございました。

(高校41回 飯盛 宏徳)



多岐支部

2月16日 北多久公民館 65名

当番会期最後の大事な仕事という事で、支部実行委員以外にも、多くの仲間が会を盛り上げてくれ、改めて「絆」を感じる事が出来た総会となりました。

会員ばかりでなく、総会参加者の高齢化という各支部共通の問題に直面しながらも、「あんた達がしようない参加しゅうかね〜」など、温かい言葉をかけていただき、感謝と達成感を感じながらの一日となりました。

アトラクションでは、多久ミュージカルカンパニーの発表を見て、子供達の元気を分けてもらえた気がしました。

「また来年までお元気です！」を合言葉に、盛会のうちに終えることが出来ました。(高校40回 吉木 昌久)



県庁支部

8月22日 グラデはがくれ 54名

総会には、黄城会本部の岩松会長(高校10回)、母校小城高校の坂本校長、佐賀県議会から伊東議員(高校32回)、藤木議員(高校38回)、藤崎議員(高校41回)ほか、ご来賓の皆様にもご出席を賜りました。

県庁支部は、佐賀県政に関わる様々な部門で勤務する職員で構成していますが、様々な分野があり、職場も県内全域に広がるため、必ずしも、同窓の職員同士が顔を合わせて話をする機会は多くありません。懇親会では、佐賀県で働く仲間同士の語り、懐かしい昔話で大いに盛り上がり、最後は全員で校歌を熱唱しました。

今回の総会では、支部長、幹事長の交代がありました。伝統ある黄城会の支部長の重任を仰せつかり、身の引き締まる思いです。

県庁支部の会員一同、これからも佐賀県の一層の発展に貢献できるよう、頑張ってまいります。
(高校31回 県庁支部支部長 南里 隆)





高校16回
梅崎 茂弘

2012年の総会後の饅頭会で、誰、言うともなく「我々も再来年は壇上だなあ、そろそろ準備しなくては」という声が上がりました。まずは音信不通の130名余りの住所を突き止めようということで、10人程、佐賀市の藤山「佐賀の裕次郎」照友君の経営する「ぎやらりいふじ山」に集まり作業を行いました。3月現在、卒業生427名中325名の住所が判明しており、物故者42名、住所不明60名となっています。又「ふるさと通信」を発信し、50周年記念同窓会の周知を図り、地元の同期が一丸となって、遠来の友を迎えようと準備してきました。

昨年12月の世話人会での姉川勝利君の「遠方より足を運んでくれる友のために、高校時代の思い出等を投稿してもらい“思い出つづり記”を作ろう、費用は地元中心に名刺広告をお願いして捻出しよう」という一言が引き金で「思い出つづり記」の発刊を決定しました。がほどなく肝腎の姉川君が入院加療を余儀なくされる事態になってしまいました。2月24日現在で投稿1通、名刺広告ゼロという状況で、しかも限りある時間の中で、手を挙げてくれたのが江里口“主夫業の傍ら、生涯ボランティアを目指す”勉君でした。そこで藤山君が原稿、名刺広告の募集と整理、東島“楽しい旅はおまかせ”慶次郎君が費用面、その他。そして東島“小城のタモリ、ボランティアの鬼”の適切なアドバイス。世話人会発足時から活躍してきたが入院加療中の田久保和彦君から多数の思い出の写真の提供があり、総会直前に34ページという立派な「思い出つづり記」が発刊できました。

5月2日の総会前夜祭当日、遠方よりの友を佐賀駅で、豆田“自遊人”泰夫君作のプラカードで出迎え、大正

屋のバスで嬉野へ、途中お土産の羊羹を積み込むため、堤謙太君の店に寄り、一路会場へ。受付には鳥越“書道六段、韋駄天”節子さんと市丸“25年前もタクト、今日もタクト”悦子さんが満面の笑顔でお出迎え。秀島“書はハート”敏江さん作の立派な横断幕の下で、両東島君の司会で開会。歓迎の挨拶後、思い出の校舎が解体され、新しく教室棟が新築されることを報告し、6年後オリンピックの開催に併せて、東京で大同窓会をやろうと提案。岡島清弘君、緒方育代さん兩名の音頭で懇親へ。江口“手鏡婦人”磯子さんの日本舞踊の披露もあり、宴も酣、突然オクラホマミキサーが、1番賑やかな刻でした。二次会は樋口“牛津の渡哲也”光典君の司会で大いに盛り上がり、みんな歌の上手なこと。高校時代もこうであったら、小城高演歌部ができたのに。

総会当日の朝8時にホテルを出発し、9時に到着。大楠の下に行くと懐かしい顔、顔、顔。16回生には総会に於いて大変重要な役がありました。115年の伝統の重みをずっしりと感じる校旗入場の大役であります。旧中の校旗を関東地区の岡田史一、中原隆弘、古賀寿一の三君、旧高女の校旗を江里口勉黄城会佐賀支部長を支える女三銃士、東田弘子さん、安藤美代子さん、松尾マサ子さん、新高の校旗を関西地区の石田輝夫、加藤寛、岡島清弘の三君。実に堂々たる入場でした。私達は、卒業50周年の16回生を紹介しますとアナウン

スされると同時に、在校生のプラスバンドの奏でるメロディにのり、総会参加者の皆様方の大きな拍手に送られ、壇上に上がり、黄城会会長よりお祝い金と豪華な花束を頂戴し感激したところです。総会終了後集合写真の撮影。直ちに大同窓会の会場開泉閣に移動し、恩師の江島、香田、吉田三先生のご臨席を賜り、代表して江島先生より、心温まるお言葉を頂戴致しました。

祝杯の音頭を、持永信夫君と千葉から参加の友沢薫さん兩名にとってもらい開宴。クラス毎に自己紹介、各テーブルを回っている間にタイムオーバー。

恩師の先生方をアーチを組んでお見送りし、同期の絆を深めていこうと確かめ合って解散。まだまだ語り尽くせぬ、二十数名、深川純二君が館長を務める「国登録有形文化財」「佐賀県遺産」の深川家に移動し、小宴を。大いに盛り上がり、話に花が咲きました。別れを惜しみ、再会を約して解散。以上が顛末です。

本総会を担当して頂いた41回期の実行委員の皆様方のご労苦に敬意を表したいと存じます。お陰様で楽しい50周年記念同窓会ができました。最後になりましたが、県内有数の組織力、団結力を誇る黄城会の益々の発展と115年の輝かしい歴史と伝統をもつ、我等が母校県立小城高等学校の更なる飛躍を心からご祈念申し上げます。

ありがとうございました。





進路について

古賀 俊介（佐賀大学医学部医学科）

私はこの3年間で勉強と部活動の両立に励んだり、2年次には生徒会長、3年次には小城高祭実行委員長を務めさせて頂いたりして様々なかけがえのないことを学ばせて頂きました。

私は伊万里市から通学していたので自宅での学習時間があまりとれませんでした。その分、電車での移動時間を有効に使って学習に取り組み、最後には佐賀大学医学部医学科に合格できました。

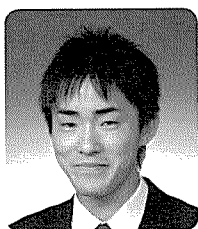
部活動は私にとって思い入れの深いものでした。小城高校で柔道をしたということが私が小城高校に入

学した最も大きな理由でした。完全下校時刻が7（19）時のため練習時間は他校よりも少ない中、どうしたら強くなれるか考え、日々の稽古に取り組みました。稽古の質を高めることをはじめ、練習の前後や昼休みのトレーニング、食事など様々な面で工夫を重ねました。国体九州ブロック予選やインターハイに出場させて頂き、九州・全国レベルの試合や雰囲気を経験させて頂いたことは私の中で大きな糧となりました。

生徒会や実行委員会として学校行事の運営に携わるような活動を私は高校生になるまで経験したことはあ

りませんでした。失敗することもありましたが、先生方をはじめ多くの方からアドバイスや協力をして頂きました。学校や人の為に何かをすることの大切さや充実感、人とのつながりのありがたさを痛感しました。

3年間、多くのことに挑戦し、やり遂げることができたのは、努力の大切さをはじめ柔道で教えて頂いた精神と周囲の人々からの支えがあったからだと思います。小城高校で学んだことに誇りを持ち社会に貢献していける人間になれるよう、これからも精進したいと思います。



高校生活を振り返って

北野 嘉明（熊本大学工学部情報電気電子工学科）

私はこの3年間ソフトテニス部に所属し、勉強と部活動の両立を目標に努力を続け、その中で様々なことを学びました。

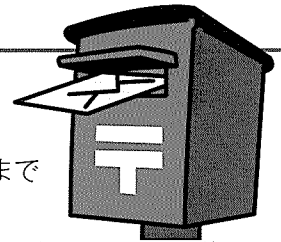
部活動では県総体で優勝することを目標に仲間たちと競い合いながら日々の練習に励みました。その結果、部員たちはもちろん、保護者の方々や先生方の力もあり、団体戦で県体準優勝という結果を残すことができ、仲間と協力することの大切さを実感しました。

部活動を引退した後は学校祭の準

備と受験勉強を並行して行い、学校全体が一丸となって最高の学校祭ができたと思います。学校祭が終わった後は大学受験へ向けて日々の勉強量も格段に増え、休息や睡眠に費やす時間も減り、思うように伸びない模試の成績に悩まされ、身体的にも精神的にも辛い日々が続きましたが、同じ目標に向かって勉強する仲間たちに刺激され、最後まで努力を続けることができました。その成果もあり、熊本大学に前期日程で合格することができました。最後まで頑

張り通し、大学に合格することができたのは先生方や仲間たちや家族からの支えがあったからだと思います。

私はこの3年間で勉強面以外でも多くの人たちに支えられてきました。このような温かい人たちに囲まれ、小城高校で充実した3年間を過ごすことができたことを本当に幸せだと思います。私を支えてくれた小城高校を支える一人となれるようにこれからは黄城会の一員としての自覚を持って頑張りたいと思います。



平成25年関西支部総会報告

関西支部事務局長 古賀 和良

昨年の総会は、猛暑の夏が過ぎ去った後、続けざまに2つの台風が通り過ぎるような時期の10月20日（日）に60名の出席を頂き開催されました。

本部からは井手真喜子副会長、学校から大塚政文教頭及び支部から山崎禎昭関東支部長、久本哲義中京支部長に来賓としてお越し頂きました。

関西支部では、一昨年から当番幹事が出席できない状態の中で、米田前支部長の発案で総会準備を進める実行委員会の設置を幹事会で決め、新田副支部長が実行委員長を務め、委員として27期、31期、38期の幹事他の方々に案内状の作成、発送及び集計またイベントの企画立案、総会資料作成に至るまで全ての作業を受け持つて頂きました。

総会当日の第2部については、本部当番幹事東島朗実行委員長の他7名の方々に進行をお任せしました。

40期生の皆様には総会前日に大阪入りして頂き、支部実行委員メンバーとの交流会の中で2部のイベント打合せ、進行打合せを完璧に行い総会当日に備えました。

織田祐輔ミニコンサート、羊羹当てクイズ、東島委員長他のミニトークショー及び支部会員様の飛び入りカラオケ大会まで始まり終始盛大に盛り上がり、「来年も元気で皆

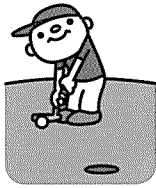
さんと総会で顔を逢わせましょう」を合言葉に閉幕致しました。

山崎関東支部長より昔の大阪の様に関西支部も元気を出していきましょうと励ましの言葉を頂きました。関西支部でも昨年からのホームページを

作成、掲載致しました。

今年度よりホームページ部及び広報広告部を設置して支部会員様及び黄城会全支部との交流も深めていきたいと思っています。





第11回ゴルフコンペ 優勝 堤 謙太 氏!!

毎年恒例の第11回黄城会ゴルフコンペ（佐賀支部主催）が5月18日（日）大和不動カントリークラブに於いて開催されました。総勢61名の参加があり堤謙太氏が3回目の優勝で幕を閉じ無事終了することができました。また参加者からチャリティー募金が寄せられましたので、黄城会に贈らせていただきました。

なお上位入賞者の方々は右の表のとおりとなっております。開催にあたって準備等ご尽力いただいた方々誠にありがとうございました。

優勝	堤 謙太
準優勝	川副 正康
3位	中尾 光宏
4位	山本 康德
5位	古賀 正人
6位	水田 政光
7位	鶴丸 達男
8位	千北 政利
9位	中山 健二
10位	西 豊

平成26年度 支部総会予定日

*平成26年度の支部総会開催日をお知らせいたしますのでご参加ください。(時間、会場等は各支部へお尋ねください)

支部名	予定日	氏名	電話
関東	H26 10/25(土)	副支部長兼幹事長 檜崎 進	042-324-5857
関西	H26 11/3(月・祝)	事務局長 古賀 和良	072-224-4680
中京	H26 11/2(日) 11/9(日)	事務局長 堤 淳	056-152-9252
関門・北九	11/6(日) 未定	幹事長 永山 重隆	093-771-0081
福岡	H26 10/12(日) 10/11(土)	幹事長 山口 順蔵	092-591-2847

支部名	予定日	氏名	電話
長崎	未定	副支部長 大場 勝彦	095-823-0637
唐津	H27 2/1(日)	事務局長 鮎川 正博	090-4997-1372
佐賀	H26 10/19(日)	事務局長 圓城寺重憲	0952-33-0727
県庁	3/29(土) 未定	幹事長 神代 芳男	0952-25-7221
多久	H27 2/8(日)	事務局長 古賀 通雄	0952-75-3629

《 事務局からのお知らせとお願い 》

1 普通教室棟改築などのスケジュール

※工事期間中、黄城教育会館南側駐車場は使用禁止。
ご来館のときは、図書館北側に駐車してください。

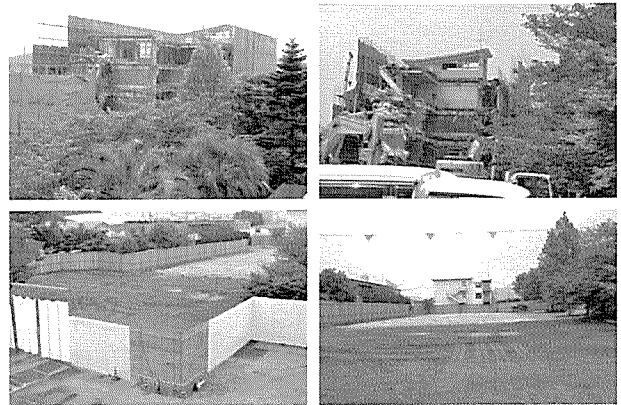
- ①解体工事（普通教室棟、渡り廊下、駐輪場等）
平成26年6月10日終了 30日検査
- ②教室棟改築工事（平成26年8月末契約予定）
- ③渡り廊下その他工事（平成26年12月契約予定）
※新校舎への引越（平成27年8月予定）
- ④駐輪場工事（平成27年8月契約予定）
- ⑤舗装工事（平成27年11月契約予定）
- ⑥植栽工事（平成27年11月契約予定）

2 会報への投稿のお願い

会員の皆さまから寄せられた原稿を会報に掲載していますが、近年は投稿が少なくなっています。会員相互の親睦や情報交換に役立てていきたいと考えておりますので、投稿にご協力をよろしくお願い申し上げます。なお、紙面の都合もありますので、1,200文字以内ぐらいにまとめていただければ助かります。

3 ご意見・ご要望について

会員の皆さまから、ときどきご慰労やお褒めの言葉又はお叱りの言葉をいただきます。どれも黄城会にとりましてはありがたい励ましのお言葉と感謝しておりますが、中には、説明を必要とするご意見等もありますので、返事などの対応ができますよう、卒業回期やお名前をご意見等とともにお知らせください。今後も、皆さまのご意見・ご要望を反映させてまいります。



黄城会総会を終えて

2014年度黄城会総会実行委員会

実行委員長 飯盛 宏徳 (高校41回)



2014年度黄城会総会実行委員長を務めました飯盛です。

旧制中学115周年・旧制高女106周年・新制高校65周年を迎えられました黄城会員の皆様、誠におめでとうございました。私達当番会期41期生は「つむぐ 黄城の伝統・人・心」というスローガンの下、精一杯力を合わせて準備を進めてまいりました。しかし、不行き届きの点が多く、皆様には大変ご迷惑をお掛け致しましたことと存じます。この場をおかりして心より深謝いたします。

総会に向けて、リハーサル、前日準備といよいよ押し迫ってきた時、総会を成功させる事が

出来るだろうかと大きな不安が募りました。そして迎えた当日、澄みわたる五月晴れの下、多くの先輩方をはじめ関係各位の皆様方にご協力をいただきまして、無事に2014年度黄城会総会を終える事ができました。衷心より厚くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。多くの先輩方が早朝よりご来場賜り本当に感激いたしました。そして、伝統という重みを身にしみて感じる一日となりました。

ここに至るまでには、いろいろな経験を積みました。まさしく、人、心、そして伝統をつむぎながらの一年であったと振り返ります。また、喜ばしい事に

我が会期からこの準備委員会での縁で結婚した者がおりました。高校生の頃はあまり話をしていなかったにもかかわらず、実行委員会のあとの食事会をきっかけにお付き合いが始まったのです。黄城会という縁で結ばれた二人を同級生一同心より祝福いたしました。

最後になりますが、来年の本総会実行委員の42期生にも私たちに戴きましたご指導ご鞭撻のほどをお願い申し上げ、お礼の挨拶といたします。

本当にありがとうございました。

饅頭会を終えて

2015年度黄城会総会実行委員会

実行委員長 川副 伸吾 (高校42回)



2014年の黄城会総会、饅頭会が無事に開催されました事に感謝し、お礼を申し上げます。

黄城会という言葉は、もちろん私が在学中から耳にしていた言葉ですがその在学中に黄城会を気にしたり意識したりする事はありませんでした。改めて黄城会総会の担当年を迎えるにあたり、今年の1月に41期生から招集がかかりこの黄城会総会の事を少しずつですが分かりはじめたところです。担当をするにあたり同級生からは、何て規模が大きい総会なんだとか大変そうだとかという声が聞えてく

る中、私達が卒業して25年余りたちますが、すばらしい機会が回ってきたのだという実感がありますし、もちろん同級生達へも伝えましたが、卒業して会う事がなかった仲間と再び会う事が出来て、しかも同じ目的へ向って準備の仕事をする上で私達自身が再び黄城の伝統、絆が生まれるんだよと。

私は当時、野球部だったのですが、野球の事、当時は土足で教室に出入りしていた事、木造校舎がまだありその木造で勉強していた事など様々な思い出がよみがえってきます。

今年は、饅頭会を担当させていただきましたが、1年ぶり、又は数年ぶりに会う同級生、先輩、後輩と団欒されている光景には、私達も自然と笑顔になる事が出来、このようなお世話の機会があって本当に良かったと感激しました。

これからもっと歴史と伝統の小城高校の事を勉強、理解するよう努め、来年の5月3日に私達も笑顔で、そして総会に出席される方々が笑顔で来席されますように1年をかけて準備をしていくように努めてまいりますので、どうかよろしくお願い致します。

平成26年度黄城会役員一覧

▷会長 = 岩松要輔 (高10回) ▷副会長 = 七田義孝 (高15回) 川副春海 (高26回) 井手真喜子 (高29回) ▷顧問 = 坂本武敏 (校長) 大塚政文 (教頭) ▷理事 = 石井倫平 (中45回) 内野正久 (高3回) 永池安彦 (高4回) 川副富男 (高5回) 林口彰 (高6回) 兵働文雄 (高7回) 大野雅央 (高8回) 真子輝雄 (高11回) 小柳平一郎 (高12回) 中尾久司 (高

13回) 森永四郎 (高14回) 梅崎茂弘 (高16回) 松尾剛之 (高17回) 野田和良 (高18回) 江口武 (高19回) 野田豊秋 (高20回) 江口隆陽 (高21回) 坂井一弥 (高22回) 堤覚三 (高23回) 古賀正人 (高24回) 圓城寺猛 (高25回) 横尾俊彦 (高27回) 井手美保子 (高28回) 堤雅彦 (高29回) 岡正幸 (高30回) 安永正 (高31回) 伊東猛彦 (高32回) 水田信 (高33回)

真崎俊夫 (高34回) 松尾直人 (高35回) 西岡聖師 (高36回) 梶原聖司 (高37回) 北島清孝 (高38回) 北村武士 (高39回) 高塚誠 (高40回) ▷監事 = 梶原千尋 (高5回) 金丸盛登 (高9回) 福田智恵子 (高26回) ▷事務局長 = 外尾美好 (高20回) ▷庶務 = 山崎史子 (高41回) ▷会計 = 大場知子 (高37回)

支部役員一覧

[関東支部] ▷支部長 = 山崎禎昭 (高9) ▷副支部長 = 石田幸子 (高9) ▷副支部長兼幹事長 = 楢崎進 (高14) ▷事務局局長兼常任幹事 = 川副隆之 (高32) [中京支部] ▷支部長 = 久本哲義 (高11) ▷副支部長 = 庭木利秀 (高7) 川島公子 (高11) 梅谷雅和 (高17) ▷庶務 = 江里口多美雄 (高21) ▷事務局長 = 堤淳 (高40) [関西支部] ▷支部長 = 梶原邦夫 (高12) ▷副支部長 = 瀬戸口ミサ子 (高10) 新田安典 (高22) ▷事務局長 = 古賀和良

(高31) [関門・北九州支部] ▷支部長 = 橋間啓人 (高9) ▷幹事長 = 永山重隆 (高13) [長崎支部] ▷副支部長 = 大場勝彦 (高11) [県庁支部] ▷支部長 = 南里隆 (高31) ▷幹事長 = 神代芳男 (高32) [福岡支部] ▷支部長 = 武富一三 (高8) ▷副支部長 = 池田義實 (高8) 養田喜美代 (高14) ▷幹事長 = 山口順藏 (高18) [佐賀支部] ▷支部長 = 江里口勉 (高16) ▷副支部長 = 梶原千尋 (高5) 安藤真

行 (高15) 宮原史枝 (高15) ▷事務局長 = 圓城寺重憲 (高20) [唐津支部] ▷支部長 = 白石元秀 (高7) ▷副支部長 = 永淵明則 (高16) ▷事務局局長 = 鮎川正博 (高28) [多久支部] ▷支部長 = 吉浦啓一郎 (高15) ▷副支部長 = 牛島和廣 (高17) 尾形節子 (高4) 飯守康洋 (高24) ▷幹事長 = 内野正久 (高3) ▷事務局長 = 古賀通雄 (高23)

平成25年4月～平成26年3月までの物故者 (敬称略)

(回期) 氏名 [住所]

(旧中) (29) 秋山 良次 [小城市] (29) 於保 貞誌 [大野城市] (31) 池田 伊郎 [春日市] (31) 尾崎 政彦 [鹿港市] (31) 北島 喜代二 [佐賀市] (32) 中尾 修 [多久市] (32) 中山 一馬 [武雄市] (32) 西村 謙次郎 [佐賀市] (34) 中島 隆浩 [小城市] (35) 八田 正由 [福岡市] (36) 西岡 晴高 [佐賀市] (37) 源五郎丸 勝 [小城市] (37) 中村 利夫 [長崎市] (38) 國信 強 [多久市] (39) 古賀 一正 [小城市] (39) 陣内 元良 [佐賀市] (39) 堤 公彦 [多久市] (39) 中島 豊治 [小城市] (39) 中溝 潤市 [小城市] (39) 西村 徳 [多久市] (40) 犬塚 正一 [福岡市] (40) 大石 孔 [多久市] (41) 坂井 功輔 [小城市] (41) 田中 政憲 [多久市] (42) 池田 忠幸 [那覇市] (42) 今村 幸夫 [武蔵野市] (42) 江頭 勝美 [佐賀市] (42) 山領 政澄 [佐賀市] (43) 西岡 清 [小城市] (44) 北嶋 常昭 [大野城市] (44) 森永 久真雄 [小城市] (45) 原口 保雄 [神戸市] (47) 林口 民雄 [多久市] (高女) (9) 山口 ミツ [国分寺市] (11) 森永 サワ [小城市] (12) 江田 ロク [日置市] (12) 栗原 シヅエ [小城市] (13)

野中 富美代 [佐賀市] (14) 木村 敏子 [小城市] (14) 中島 キクヨ [小城市] (15) 大家 クニ子 [小城市] (16) 大石 テイ [佐賀市] (16) 是常 幸江 [狭山市] (17) 岸川 藤子 [唐津市] (19) 内野 鈴子 [多久市] (19) 古川 ぬ美子 [佐賀市] (19) 前田 サヨ子 [小城市] (20) 坂井 ミヨ [杵島郡] (20) 鶴丸 敏子 [小城市] (22) 下川 信子 [佐賀市] (27) 大久保 初音 [神戸市] (高校) (1) 中村 吉次 [佐伯市] (2) 小川 発也 [佐賀市] (2) 森松 孝輔 [武蔵野市] (3) 木下 勝義 [多久市] (3) 小柳 榮次郎 [武雄市] (3) 村山 秀康 [多久市] (4) 江頭 久行 [佐世保市] (4) 枝吉 信種 [船橋市] (4) 山口 孝子 [宮崎市] (5) 倉持 友一 [船橋市] (5) 宮崎 幸雄 [福岡市] (5) 金山 キク子 [春日市] (5) 志田 千代 [堺市] (5) 宮原 静代 [三郷市] (6) 深川 マス子 [小城市] (7) 藤井 勉格 [多久市] (7) 松永好弘 [小城市] (7) 吉富 清美 [小城市] (7) 遠矢 浩子 [静岡市] (7) 南里 幸子 [鎌倉市] (8) 藤井 静子 [多久市] (9) 野田 康雄 [大阪市] (10) 川久保 定宏 [小城市] (10) 西岡 孝 [小城市]

(10) 西村 芳樹 [佐賀市] (10) 川原 幸代 [小城市] (10) 中村 康子 [田方郡] (10) 成富 貞子 [小城市] (10) 福地 静子 [佐賀市] (11) 古賀 義男 [武雄市] (11) 田代 良行 [鹿港市] (11) 森 節子 [佐賀市] (12) 陣内 征四郎 [中野区] (12) 田中 恒敬 [立川市] (12) 福戸山 昭子 [三原市] (13) 井上 東吾 [宗像市] (13) 谷口 征一 [小城市] (13) 山田 卷枝 [小城市] (16) 瀬川 信子 [小城市] (16) 高原 光代 [小城市] (17) 大屋 政孝 [福岡市] (17) 吉田 正文 [多久市] (19) 東島伸行 [小城市] (22) 大坪 要 [小城市] (22) 永嶋 聖健 [多久市] (22) 大石 美恵子 [佐賀市] (23) 友田 敏昭 [多久市] (24) 馬場 光彦 [小城市] (27) 北島 秀喜 [小城市] (29) 北川 達也 [佐賀市] (31) 尾形 和則 [小城市] (40) 鶴田 由紀 [多久市] (41) 原 岳人 [佐賀市] (定時) (本1) 山口 昭義 [小城市] (本9) 荒川 良清 [小城市] (本24) 原田 茂 [小城市] (多4) 武富 則彦 [多久市]

寄付金・寄贈

(平成25年4月～平成26年3月)

寄付金 高女24回 松隈幸子様 1,500円/高校15回一同様(卒業50周年)様 50,000円/高校23回 内野安成様 100,000円/高校29回一同様 29,000円/高校30回一同様 1,700円/佐賀支部主催黄城会第10回ゴルフコンペ 20,000円
寄贈図書 高校6回 吉村久夫様 『二十一世紀の落とし穴』

会費納入のお願い

盛夏の候 黄城会会員の皆さまにはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、黄城会会費納入のご協力について、下記のとおりご案内申し上げます。

近年の納入者の減少（別表参照）で、黄城会の目的である『会員相互の親睦を図り、同時に佐賀県立小城高等学校の発展に寄与する』ための円滑な運営が懸念されています。会員の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

なお、行き違いで、すでに今年度の会費を納入していただいた方に、会費納入の案内が届きましたらご寛恕ください。

本格的な夏を迎えました。皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

記

1 会費の区分

1年会費 2,000円 5年会費 10,000円 終身会費 50,000円

2 会費の振込金融機関

最寄りの『ゆうちょ銀行(郵便局)又は金融機関』から振り込みをお願いします。

金融機関から振り込まれるときは、佐賀共栄銀行又は佐賀銀行のいずれかを選んでください。

※ 振込手数料は黄城会が負担しますので、会費のみを払い込んでください。

※ 近隣の方は、黄城会事務局に直接ご持参いただければ、経費面で助かります。

※ 『自動払い込み』にご協力いただける方には、手続きの書類を送らせていただきますのでご連絡ください。

3 回期だより

『回期だより』を作成された回期に同封しています。ご高覧ください。

(別表)

年度別会費納入状況

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
人数	1,482人	1,491人	1,474人	1,400人	1,336人	1,256人
金額	4,796,000円	5,206,000円	5,428,000円	5,171,000円	4,769,000円	4,202,000円

住所変更等の連絡のお願い

住所（改姓を含む）を変更されたときは、黄城会事務局までご連絡をお願いします。その際には、卒業回期、旧姓もお知らせください。

※ 払込取扱票（振込通知書）の通信欄にご記入ください。

編集後記

今年では会報をスムーズに皆様に届けようと事務局では計画していましたが、思わぬ事故に遭い入院するはめになってしまいました。初めての入院生活は戸惑うことが多く三度の食事もありがたいのですがやはり家族で囲む食卓に勝るものはないと思います。なにげなく過ごす生活を大切にしたいと思います。(事務局：大場)